京 機 短 信
No.183 2012.05.20
京都大学機械系工学会（京機会） tel.& Fax. 075-753-5183
E-Mail: jimukyoku@keikikai.jp
URL: http://www.keikikai.jp
編修責任者 久保愛三

ここまで来た！日本の燃料電池自動車 （その 4）

昭和３９年機械科卒 平 忠明

経産省・FCCJ：燃料電池実用化推進協議会は、2025 年度までの水素インフラ、FCV 普及の目標を 2010 年に発表し、現在その目標に向けて業界が動き出した段階にあるといえる。水素充填所は、2015 年度に総計 100 か所、2025 年度に 1000 か所設置を目標としている。

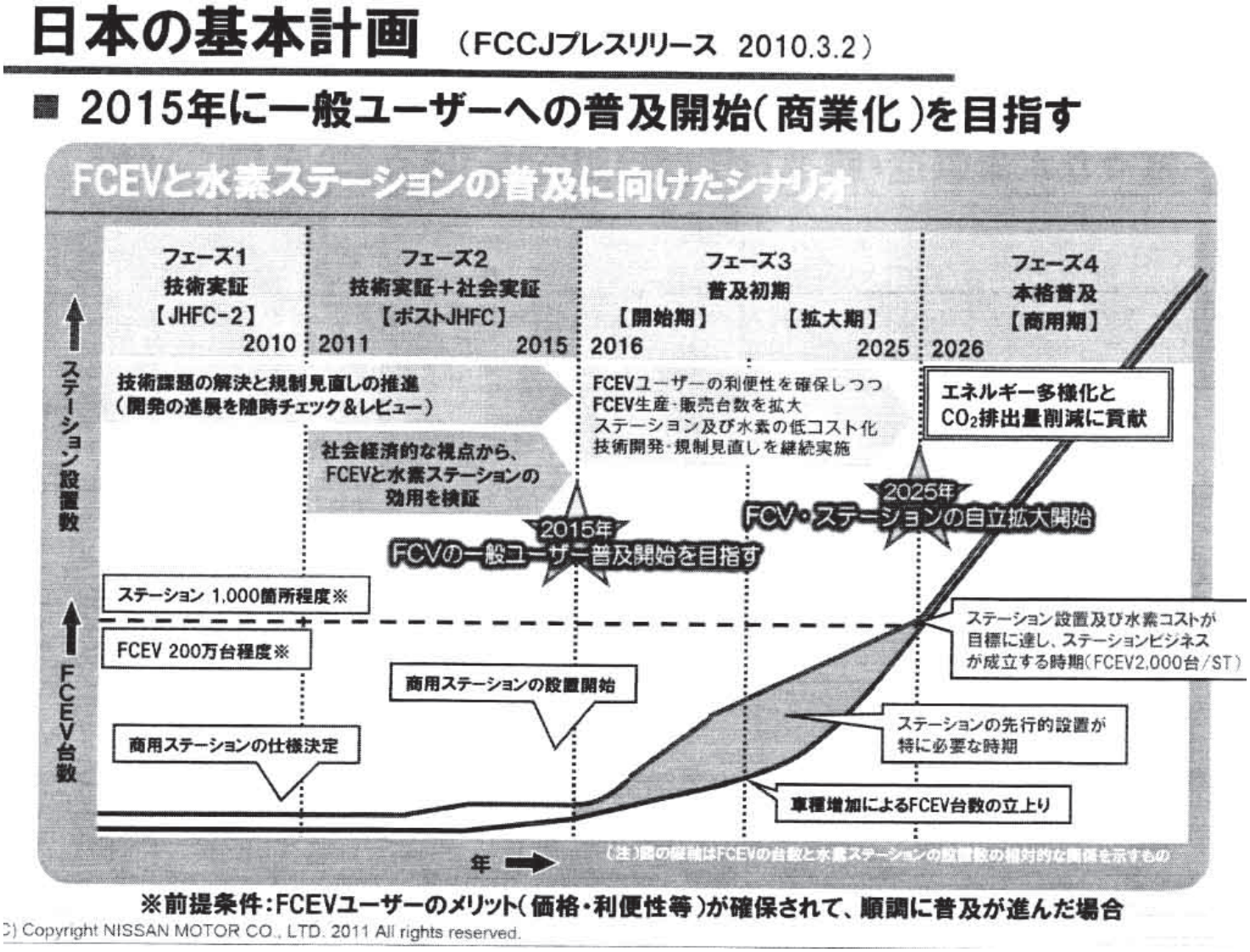

図１０ 日本の基本計画

一方、ＦＣＶの普及台数については、１水素充填所あたり採算が取れる自動車台数から計算したものとして、2025年度に200万台としているが、残念ながらその数字の信憑性については、根拠がないとされている。

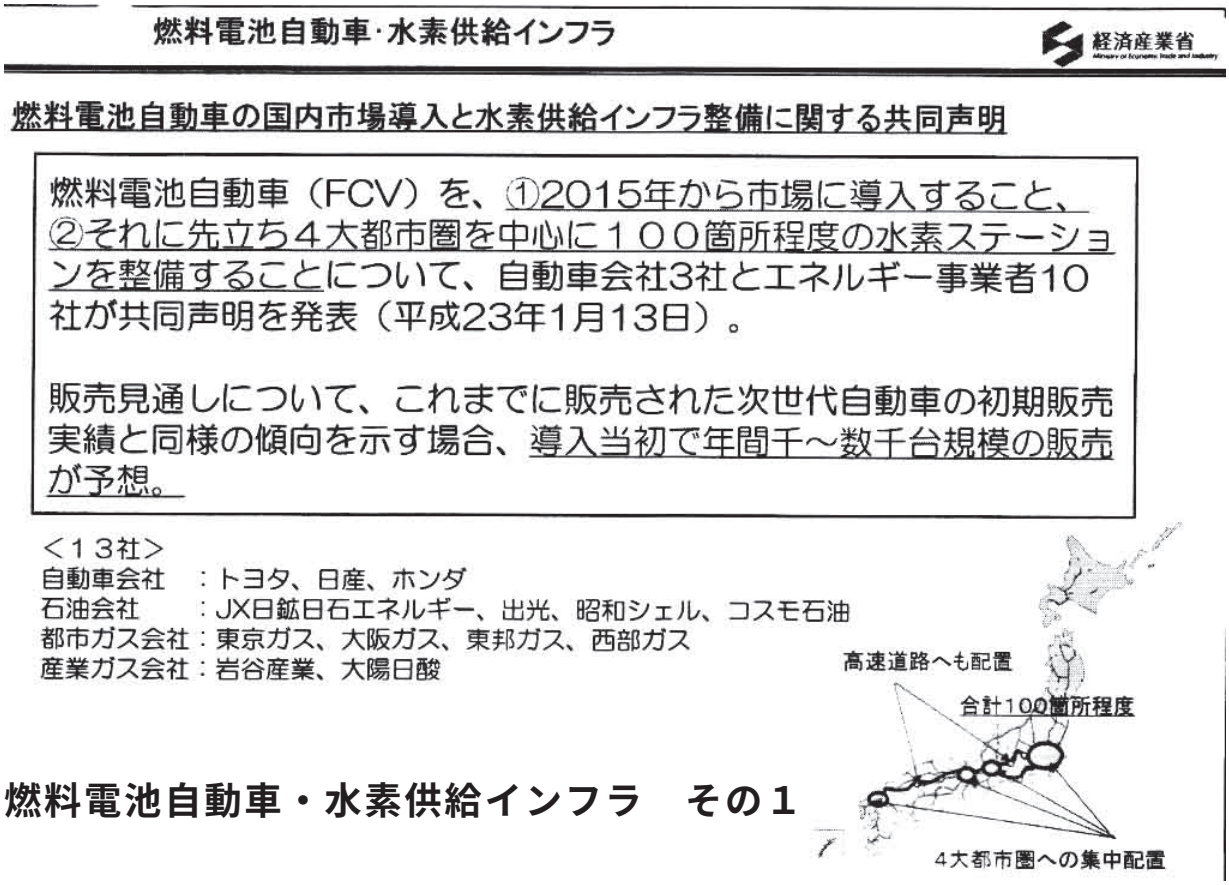

図１１　燃料電池自動車・水素供給インフラ　その１

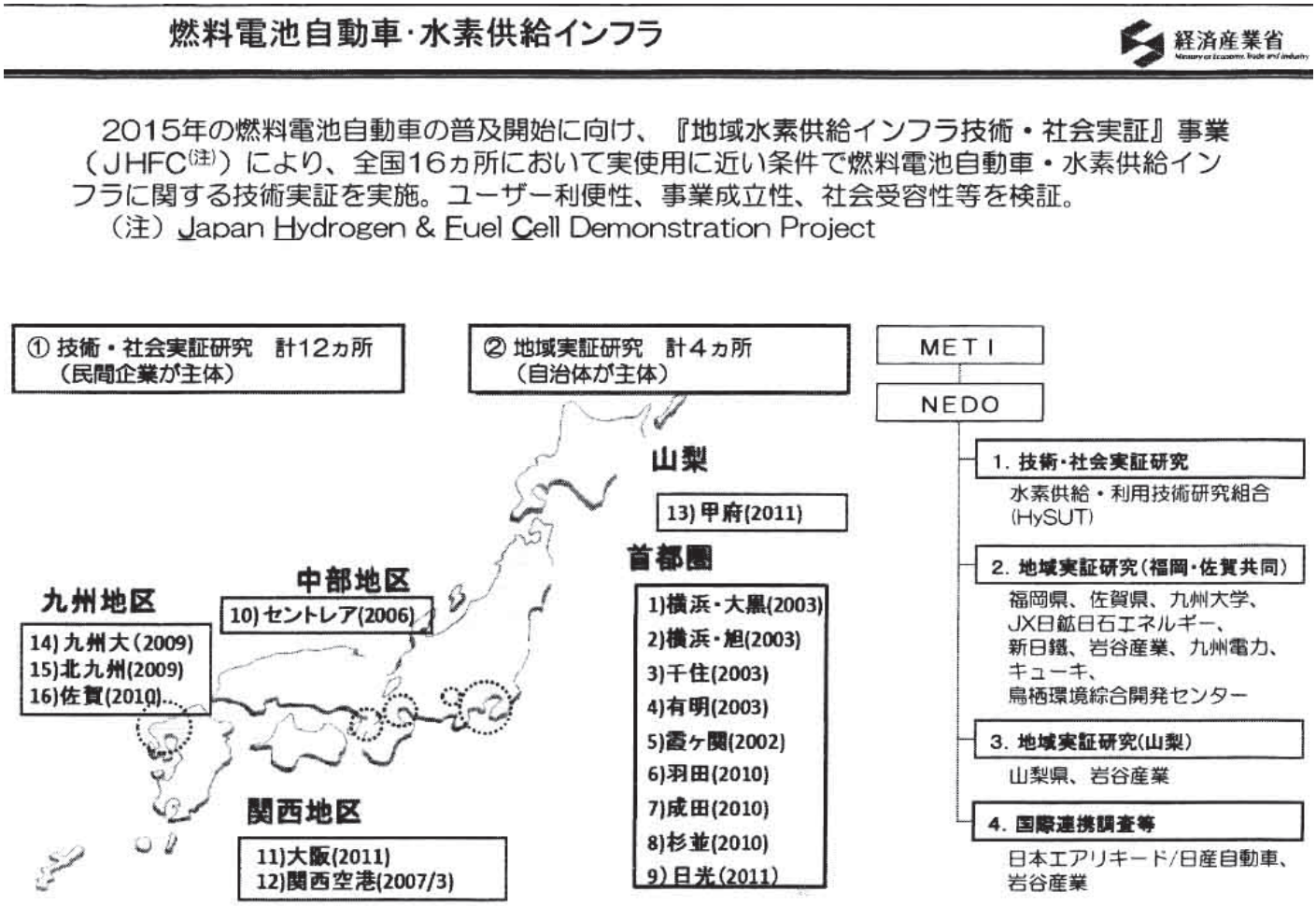

図１２　燃料電池自動車・水素供給インフラ　その２

今回のFC-EXPO 2012 における質疑応答でも、この普及台数が話題となった。これに関しては、昨年1月、自動車3社とインフラ業界12社が共同声明を出しているが、そこでは、導入当初2015年度に千～数千台としている。現在、すでに一般FCV車が充填可能な水素ステーションは16か所存在している。

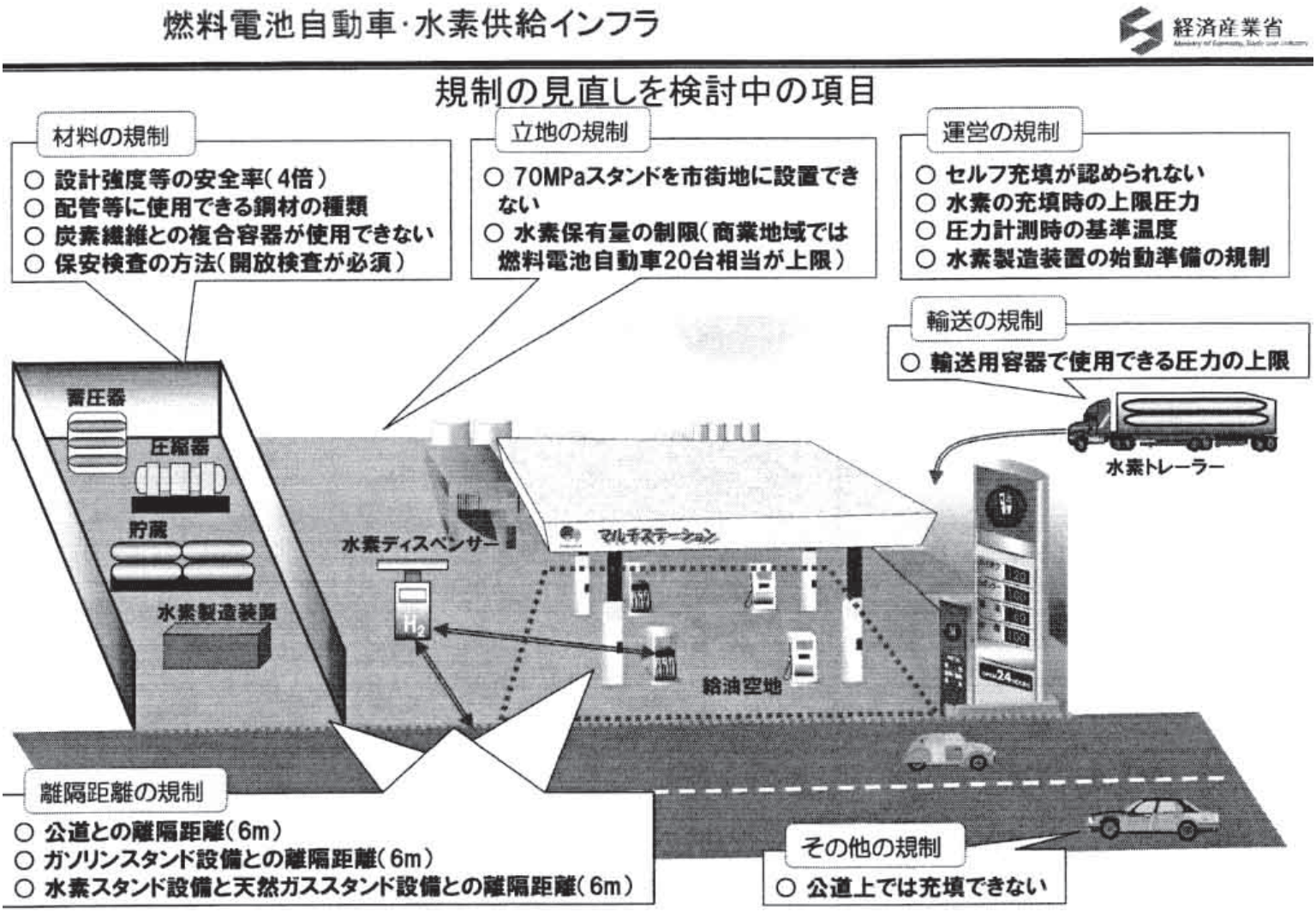

図１３　燃料電池自動車・水素供給インフラ　その３

水素充填所のイメージをここに示している。
現在日本国内にガソリンスタンドは、全国計約５万か所と推定されているが、将来の本格普及段階では、海外では一般的な、市街地におけるガソリンスタンドとの併設を主流にせざるを得ないと認識されている。
それを日本国内で実現するには、抜本的な規制緩和が前提となる。

経産省が自動車各社が開発したFCVの概略の仕様をこの図にまとめている。

日本国内で一般道を走行しているFCV車、バスの台数は正確なところは不明であるが、筆者は100台前後と推測している。一方、米国では燃料電池自動車普及の総台数は、現在約4,000台に達するといわれている。

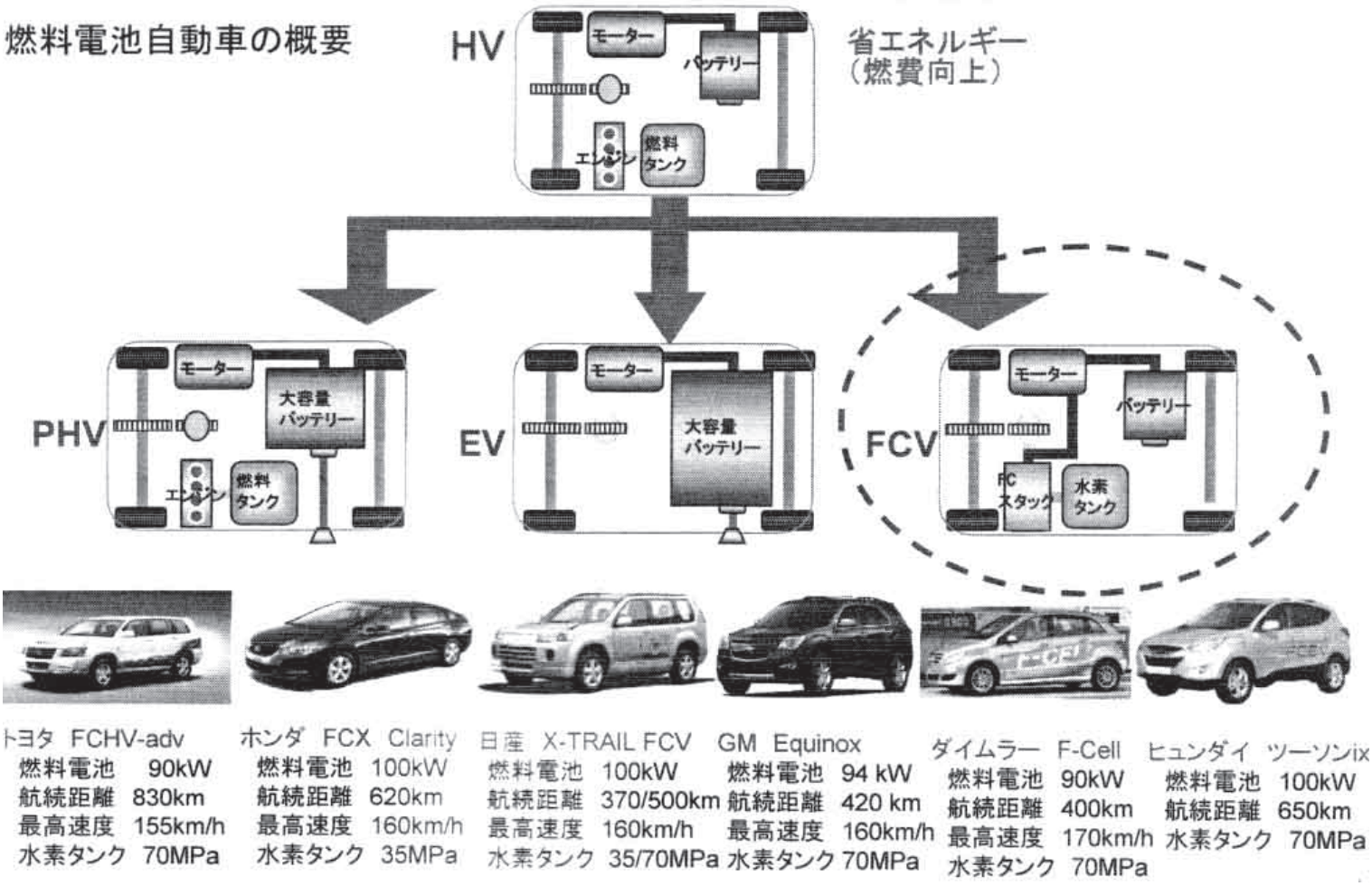

図１４　燃料電池自動車・水素供給インフラ　その４

そのうち、約2/3が、Heavy Duty Vehicle といわれる産業用車両であり、中でも最も多いのが、大型倉庫で使用されるFCフォークリフト車で、約2000 台が活躍している。

現在日本におけるフォークリフト車は、室内使用の場合の排気ガスの問題から、従来のガソリン・ヂーゼルからバッテリー駆動が主流になっているが、その場合、バッテリーの維持管理に大きなコスト負担を強いられている。　FCフォークリフトの場合は、充填時間が３分以下と短時間であることと合わせて、バッテリー維持のメンテナンスコストの大幅な削減が可能といわれている。

（つづく）

北朝鮮の「銀河３号」発射失敗と各国の対応

―北朝鮮の長射程ミサイル発射実験の失敗の背景とその影響―

平成24年5月7日　　昭和47年卒　矢野義昭

はじめに

今年4月13日午前7時40分頃、北朝鮮の東倉里の「西海発射場」から、北朝鮮が言う地球観測衛星「銀河３号」が打ち上げられた。この「銀河３号」に搭載された「光明星３号」は、北朝鮮側の発表によれば、「高度静止気象衛星データ受信機」であり、「農業など人民経済に必要な気象予報研究のための大きな一歩を踏み出す歴史的出来事」になるはずであった。

北朝鮮側は、初めて外国人記者団を招き発射準備の状況を公開した。その裏には、なみなみならない成功への自信があったのであろう。打ち上げられる衛星は、「重量100キログラムで、高度500キロメートルの太陽同期円軌道を回り、寿命は2年」となり、打ち上げ後、第1段目は全羅北道西方140キロに落下するはずであった。

しかし結果は、みじめな失敗に終わった。韓国国防部のシン・ウォンシク政策企画官（少将）は4月13日、ブリーフィングで「鉄山郡の発射場から、午前7時38分55秒に発射された長距離ミサイル1発が、1～2分ほど飛行して空中爆発した」と発表した。ロケット1段目は分解して17個、2・3段目は3個の残がいになり、発射からわずか8～9分で、平沢から群山の西方約100～150キロの海上に落下した。

4月16日韓国国防部長官は、銀河３号は発射から1分20秒後、東倉里南方約50キロ上空でロケットの爆発とみられる異常な兆候を見せ、その後も、推力や慣性によって上昇を続けたが、2分15秒たったころに70.5キロ上空で真っ二つに分離したと発表している。

最初の爆発があったのが発射から1分20秒後とすれば、そのころは1段目のロケットが燃焼を続けているころであり、「銀河３号」の爆発の原因は、一段目のロケットの燃料漏れまたはエンジンの欠陥だった可能性がより高まったと『朝鮮日報』は報じている。

もともと無理のあった発射試験

実験は完全な失敗であった。「銀河３号」の破片は、予定された海域よりもはるかに手前の海域にバラバラになり落下した。北朝鮮はこれまでは明らかな失敗でも、「成功」と内外に強弁してきたが、今回は初めて「失敗」を公式に認めた。

北朝鮮は平和目的の「実用衛星の打ち上げ」であると主張しているが、弾頭に何を搭載するかが異なるだけで、ロケット本体は弾道ミサイルと同じである。今

回の発射も、軍の要員、施設・装備などを使用して準備され、軍の指揮系統を通じて命令されたものであれば、軍用の弾道ミサイル発射実験であったといえるだろう。

今回の実験においては、科学者や技術者以上に、軍の責任が問われるであろう。なぜなら、今回の発射は、技術的可能性よりも政治的要求を優先させ、準備不十分なまま急がせたと見られるからである。そうであれば、政治的責任が問われることになりそうだが、その点は独裁体制であり、最高指導部の責任が問われることはない。担当している軍の指導部の責任追及がなされるであろう。

今回の発射試験は技術的には、失敗の公算がもともと高かった。北朝鮮はこれまで1998年を含め4回のテポドン級ミサイルの発射試験を行ってきたが、一度も完全には成功していない。通常どの国でも、ロケットであれ弾道ミサイルであれ、開発段階においては、地上での度重なる燃焼試験の後、同じ型のミサイルやロケットを十回程度は打ち上げて、その信頼性を確立するのが、常道である。

しかし北朝鮮はこれまで、失敗後に徹底的に原因を究明したのち、同じ型の改良型のミサイルを使って再度発射試験を行い成功させるという、技術的には当然踏まなければならないプロセスを踏んでこなかった。失敗をしていながら、次はまた新しい型のミサイルの発射に挑戦するという手法を繰り返している。

これでは、真の原因究明はいつまでもできず、高価なだけで信頼性のない大型ミサイルを次々に打ち上げ、さらに失敗を重ねることになる。今回も改良型のエンジンを搭載したが、何らかのトラブルがあったと見られる。

httpblog.esuteru.comarchives6088103.html

4月16日付の『朝鮮日報電子版』は以下のように報じている。

「今回の「銀河3号」について金寛鎮（キム・グァンジン）韓国国防部長官は、射程距離は1万キロ程度だ、と評価した。これは、ロサンゼルスなど米国本土西部への到達が可能ということを意味する。金長官は同日、国会国防委員会に出席し「（今回発射されたテポドン2号は）アップグレードされ、1万キロほど飛行できるのではないかとの評価がある」と述べた。北朝鮮が発表

した「銀河3号」の諸元（全長30メートル、直径2.5メートル）は、2009年4月に発射した「銀河2号」（全長32メートル、直径2.2メートルと推定）と似ているが、重さは92トンで、以前に比べ13トン増えた。

ロケットの専門家たちは、北朝鮮が推力などを高めるため、性能を改良したエンジンを搭載し、さらに多くの燃料を注入した可能性があるとみている。韓国軍は、北朝鮮が「銀河3号」の射程距離を以前に比べ3,300キロ以上伸ばし、米国本土まで攻撃できるよう、性能の改良に力を入れたとみて、分析を行っている」。

直径と重量の増加は、エンジンの大型化と燃料の増加を裏づけている。ノドン用エンジンの推力増強型であろうが、4本を束ねて1段目に使用するという基本構造は変わっていない。このような方式は旧ソ連の初期型のミサイルにみられたが、構造上4本すべてのエンジンを均等に燃焼させるのはむずかしく、成功確率は低い。

またミサイルに搭載する弾頭の重量が100キロでは、核弾頭の搭載は不可能である。最低500キロ程度の核弾頭を射程1万キロ以上投射できる信頼性のある大陸間弾道ミサイルにするには、現用のノドン改良型では困難であろう。

そのためには、単一で大出力のエンジンを新たに開発しなければならない。しかしそのような技術力も資金力も北朝鮮には乏しい。

これまで、北朝鮮はイラン、2003年以前はパキスタンとも、スカッド改良型やノドン級ミサイルの輸出を通じて、核兵器とミサイルの開発では緊密な協力関係を築いてきた。例えば2009年4月に発射したテポドンの3段目はイランとの共同開発とみられている。ただし、切り離しには失敗した。

イラン程度の技術力では、大出力エンジンの共同開発は不可能である。中国かロシアの援助なしには、このような新型の大出力のエンジンは独力で開発できないであろう。また援助があっても、打ち上げまでに数年は必要であろう。同様の見解は米国やロシアの専門家なども述べている。

しかし、韓国の金寛鎮国防相は4月13日、北朝鮮が今回の発射に失敗したことを受け「さらなるミサイル発射実験や（3度目となる）核実験など軍事的な挑発行為を行う可能性が非常に高い」と述べている。一部には、年内にもミサイルの再発射を試みるのではないかとの見方も出ている。

これを裏付けるように、北朝鮮側でも、朝鮮宇宙空間技術委員会の報道官が4月19日、「先軍（軍事優先）の道に沿って、宇宙の平和利用をより一層進める」との談話を発表、「衛星」打ち上げの続行を宣言したと伝えられている。　また北朝鮮側の報道では、失敗の原因はすでに究明されたとも報じられている。

しかしこのような短時間で原因究明ができるはずはない。ましてや残骸の回収すらできない状況では、今後とも真の原因究明はできないであろう。そのような状況で性急に再発射を強行しても、成功の確率は低い。

北朝鮮にとり性急な発射は、決して安全保障上の得策とはならない。これまで、切り離しに失敗しあるいはエンジンにトラブルが生ずるなど、4 回連続で、衛星と称する 3 段目の軌道投入に失敗している。核弾頭も大気圏再突入後の熱や衝撃に耐えて指定高度で起爆することを実証しなければならない。その技術も未完成である。

核爆弾があっても投射できなければ抑止力にはならない。さらに失敗を重ねれば、核抑止能力がないことが国際社会に明らかになり、北朝鮮にとり致命的な安全保障上の脆弱点をさらけだすことになる。むしろ危機を自ら招く結果になるであろう。

（つづく）

京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます

【要領】

宛先は京機会の e-mail： jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考えることなく、適当に書いてください。 MS ワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。

京機カフェ：　産業遺産探訪　オープニング・アナウンス

技術と産業の歴史を一緒に勉強してゆこうと「京機カフェ：産業遺産探訪」を開設します。

開設の趣旨

現在では、変化の速度が速い上に分業化が進んで、関っている技術の全体像と社会的な位置が見え難くなっています。自分が現に関っている技術の全体像をしっかりと把握し、それが外の社会とどのように繋がっているかを常に意識していることは、責任を持って仕事を進めている技術者としては当然のことであるのは論を俟ちません。

分業化し単純化した仕事をただ言われるままやみ雲にやっているのは虚しいことです。全体像が把握されていない時には、今の仕事の方向を誤る恐れもあります。上のような責任ある技術者の仕事をしっかりとやるには日頃からの心がけに加えて知識と経験の積み上げが要ります。

このための路はいろいろとあるでしょうが、その一つとして時々は只今の問題を離れてみることはいかがでしょうか。例えば、既に完成し役割を終えた過去の技術に目を配って、その発生、発展、成熟、そして終焉のサイクルを追い、それが働いた社会との関係を調べる。このようなことを通じて、技術の流れを連続した一つの生命の流れとして把握することができます。

このようなケーススタディを重ねることによって、技術と社会への理解が深まります。技術を含め世の中の事は繰り返すと言われているので、現今の問題解決に何がしかの寄与があることもまた期待できます。技術の歴史を知ることは、今まで知らなかった世界を覗いてみる楽しさに加えて、複雑多岐な技術と社会の関係への見聞を広め理解を深めることで、現在と将来の自分自身をさらに豊かにすることにも繋がるでしょう。

技術を通してより広い展望、より深い理解、より確かな自信に至るための一つの門として、技術と産業の歴史の勉強という入口を設営しました。取り敢えずは、博物館に収まった展示品を通して、その当時の技術と社会の流れを見ることから始めたいと思っています。興味を持っていただける方、志を共にされる方々のご来訪をお待ちします。

担当：　並木宏徳　h-namiki@kyobashi.net
小浜弘幸　hiroyuki@kohama.co.jp

京機カフェ：　産業遺産巡礼　第１回

と　き：平成２４年９月１５日(土) １４：００～１９：００

ところ：大阪・ＪＲ弁天町駅　交通科学博物館

探訪目標：

１．京都大学　鉄道研究会　写真展２０１２

　　メインテーマ：街　　一般テーマ：鉄道のある情景

２．栄光の名機

　ａ．星型航空発動機　　中島「誉」、ライト・サイクロン１８

　ｂ．国鉄蒸気機関車　　Ｄ５１，Ｃ６２

行事次第：

参加者は予め京機会ホームページに参加登録し、当日各自入場料(４００円)を払い会場に行って個々に展示品を見学する。１６：３０頃、写真展を行っている企画展示室に集合し、参加の受け付けを済ませて懇親会場に向かう。懇親会費（６０００円）は当日受付時に支払う。懇親会場：すし半　市岡店(歩５分)

参加申込WEB　http://www.keikikai.jp/cgi-bin/index.cgi?D277

行事担当：　小浜弘幸（１９５７年卒）hiroyuki@kohama.co.jp Tel:072-873-2658

濱野清士（１９６５年卒、鉄道研究会員）Tel：090-5045-9290

八尾正夫（１９６５年卒、鉄道研究会員）

探訪目標解説：

１．交通科学博物館

ＪＲ弁天町駅下にある交通科学博物館は今年で創立５０周年を迎えました。長い間にはここにいろいろと想い出をもたれている方もあることと思います。ＪＲ東日本の大宮の新しい鉄道博物館や、ＪＲ東海の名古屋・金城埠頭のリニア・鉄道館などのように、この博物館もあまり遠くない将来、より大きな施設に移転する計画もあるやに聞いております。技術上意義のある展示物を選びましたが、博物館自身にも興味を持っていただければ有り難く存じます。

２．京都大学　鉄道研究会　写真展２０１２

交通科学博物館で毎年９月に、京都大学の全学部ＯＢで組織されている鉄道研究会が鉄道写真展を開催されています。鉄道を愛好されるメンバーが、講演会を開いたり、グループからの寄稿を集めて「鉄道ピクトリアル」の臨時増刊特集号を発行するなど、研究成果を公表するいろいろの活動されていますが、その中でも定期的に開催されるこの写真展は、研究会の重要な行事です。

エントランスホールには１０点、企画展示室に約５０点程度展示される鉄道写真は、毎回特定のテーマを掲げた写真の他、一般テーマで「鉄道のある風景」として鉄道のいろんな様相を写真に表現して展示されています。テーマは「京都」「橋」「花」「駅」「坂」と移り、今回は「街」となりました。元来は機械装置である鉄道はいまや我々の日常生活にすっかりなじみ、欠かせない社会の公器であり日常生活の利器であると同時に、日々の生活での情感に訴え人生に彩を与える存

在ともなっています。これらのことがどのように写真に表現されているかはたいへんに興味のあることです。

参考文献：

鉄道ピクトリアル　2011 年 12 月臨時増刊　京都大学鉄道研究会編
　千年の京(みやこ) にありて－京大流知的鉄道“ 楽 ”－

京機 22 年会（昭和 22 年卒）　同期会報告

日時：平成 24 年 3 月 26 日（月）
場所：ホテルグランヴィア大阪　出席者：12 名
（写真前列左から若林夫人、窪田夫人、窪田、井上、村上、桂、後列左から若林、中井、岡田、秋山、竹内、河野）

　窪田幹事が病気回復して夫人同伴で出席し、河野、若林の司会で寮歌を交えて進行。台湾の蔡の出席が予告されたが残念ながら実現しなかった。桂の生命科学についての勉強の披露に始まって活発に各自スピーチ。近況報告に病気の現状が混じるのは年配のせいか。栄家達也、三谷晃の訃報があった。
次回：平成 24 年 11 月 5 日 ' 月）　場所：ホテルグランヴィア大阪

（中井記）

松久寛教授　退職記念行事

京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻　松久寛教授の退職記念講演会とパーティーを2012年4月29日（日）に開催致しました．この場を借りて，簡単に内容を紹介させていただきます．

退職記念講演会（最終講義）「64年間を振り返って」

（講演会の模様は，京都大学OCW（http://ocw.kyoto-u.ac.jp/）で近々公開予定です）

退職記念講演会（最終講義）は京都大学物理系校舎315講義室にて開催しました．当初は313講義室で開催する予定でしたが，開始直前に講義室のブレーカーが落ちるトラブルがあり，急遽隣の315講義室に全員で移動しました．講義室はほぼ満席で，立ち見がでるほどでした．

講演は題目のとおり，松久教授のこれまでの人生を振り返った内容で，京都大学の学部生時代にトラクターで富士山に登った話，アメリカに渡って修士を取った話，オランダを経由して日本に帰国し，京都大学の博士課程に入学した話，振動のしの字も知らないのに振動工学研究室の助手に採用され，当初は大変苦労された話などを序盤にされました．つぎに，ご自身のこれまでの研究の紹介をされました．ゴンドラ等に用いる円軌道型動吸振器の話，重量床衝撃音低減用の運動量交換型衝撃吸収ダンパの話，美術品等を地震からまもる三次元免震台の話などをされました．ここまででまだ講演時間の三分の一でした．残りの三分の二は，

最近取り組まれている技術者の地位向上，工学離れの問題，そして大半は現在最も力を入れておられる社会の縮小の必要性について時間を割かれました（縮小社会研究会公式サイト：http://vibration.jp/shrink/）．イースター島の滅亡の話などを例に，また，さまざまなデータ，計算に基づいて社会の縮小の必要性について説かれました．子孫に負債を残してはいけない，という先生の思いが伝わってくる内容でした．　講演後，花束贈呈と時計台前での記念撮影を行い，講演会の部は終了しました．

退職記念パーティー

退職記念パーティーは場所を変え，京都ホテルオークラにて開催しました．最初に自主研時代の恩師である柴田俊忍名誉教授と，衆議院議員の平智之様よりお祝辞をいただき，久保愛三名誉教授の乾杯のご発声の後，宴会が始まりました．しばしの歓談の後，イベントのプレゼントということで，「まわりの人間からみた先生の 64 年間」を参加者がリレー形式で発表しました．振動研卒業生，大学時代の同級生，振動屋，そして最後は玲子夫人に家族の視点で発表していただきました．このイベントはご本人には内緒で企画をし，思わず涙してもらうという目標を持って臨みましたが，むしろ笑いのおこる賑やかなイベントとなりました．その後，パーティーは松久教授のご挨拶，花束・記念品の贈呈，実行委員長の閉会の辞を経て，最後に参加者全員で記念撮影を行って閉会しました．

講演会・パーティーともに多くの方にご参加いただきました．どちらも終始和やかな雰囲気で，盛況のうちに会を終えることができました．今後，先生は縮小社会研究会を中心に活動される予定です．先生の今後のご活躍をお祈りして，このご報告を締めたいと思います．

京都大学松久寛先生退職記念会　実行委員長　坂口　保彦

野次馬話　第47話　「諺の曲解或いは捩れたコメント」 その4

S43卒　　遠藤　照男

ひねくれた性格の筆者が、たまには真面目なコメントも交えながら、有難い諺に捩れた解釈を加えた。　　☆印は真面目なコメントであることを示し、　●印は字句を若干置き換えて捻り、・は適当な解釈を記している。

蓼食う虫も好き好き

・蓼を喰い合うカップルは即ち蓼のカップルである。解るか？
・蓼を食う虫にも選ぶ権利はあるのに、薬を盛られて、好き好きと云わされた。

鳥の鳴く音は何処も同じ

•ｶｯｶ　ﾄﾞｩｰﾄﾞｩﾙ　ﾄﾞｩｰ　と　ｺｹｺｯｺｰが一緒なものか。嘘付け。つまり、アメリカの家畜は、日本の家畜と別種である。

犬	ﾊﾞｳ　ﾜｳ	家鴨	ｸﾜｯｸ
豚	ｵｲﾝｸ	鼠	ｽｸｳｨｰｸ
馬	ﾈｲ	羊	ﾊﾞｰ
鶏	ｶｯｶ　ﾄﾞｩｰﾄﾞｩﾙ　ﾄﾞｩｰ		

鼠は家畜ではない。為念。

飛ぶ鳥を落とす勢い

● 飛ぶ蝿を落とす鼻息
・ 解説不要。

長い舌は短い手の印

☆元の意味は、大言を吐く者は、いざとなると何も出来ないと云うこと。ところでこの諺をご存知だったか？

・我輩はカメレオンである。長い舌は手の代わりだ。

七重の襞（ひだ）（或いは膝）を八重に折る

・サナダムシ（襞）と蛸（膝）は礼儀正しい兄弟。

似た者夫婦

●煮た物フーフー
・熱いのを夫婦仲良く味わう。

人三化七(にんさんばけしち)

・霊長類酷科(ひどか) に属する。出たな妖怪！いや嬶(かかあ)・・・でもどこか大らかな表現。

猫に小判、豚に真珠

・持参金があれば容姿は不問。

・金(きん) でも宝石でもつけるから、うちの娘の誰かを貰ってくれないかなあ。

蝿が手をする足をする。

☆蝿が前足をこすっているのは、足の裏の毛が管になっていて味覚神経に繋がっており、常にクリーニングしているためである。

・あの別嬪を拝んでいた蝿がお前の顔の前で鼻をつまんでるよ。黙れ、五月蝿い(うるさい)。

●蝿が手をするり足をするり

・蝿が爺さんの頭にしがみつこうとするが、テカテカ頭に止まれず、するりするり。　そこで一句。「取りすがる　蝿になじられ　アデランス」

INFO

● 詳細はPDF版でご覧下さい。

１．政策提言「日本再生のための政策　OECDの提言」

2012.4.25　　OECD東京センター

http://www.oecdtokyo2.org/pdf/theme_pdf/macroeconomics_pdf/2012%2004_Japan_Brochure_JP.pdf

経済成長の活性化

財政の持続可能性の達成

税制改革

世界経済への融合の強化
教育の強化
医療と介護の強化
社会一体性の推進
男女格差の是正
よりグリーンな成長の実現
農政改革
幸福度と社会進歩の測定

２．日本の復興 Part4(政策・経営研究 2012 Vol.1)

三菱UFJ R&C 日本シンクタンク協議会

2011年度 特別フォーラム「激動する世界経済と日本の役割」

開催概要 http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/01.pdf

激動する世界経済と日本の役割
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/02.pdf

日本経済と世界経済の潮流変化
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/10.pdf

日本の将来展望：東日本大震災を乗り越えて
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/13.pdf

激動する世界と日本
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/17.pdf

日本『再創造』～『プラチナ社会』の実現に向けて～
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/20.pdf

パネルディスカッション
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/23.pdf

福島における生活再建をどのように考えるか
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/41.html

シンクタンク・レポート 真の生物多様性社会の構築に向けて
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/71.html

中堅・中小卸売業の生き残り戦略
http://www.murc.jp/report/quarterly/201202/90.html

３．ワシントンで痛感した変わり行く世界と取り残される日本

言論ＮＰＯ工藤泰志「議論の力」 DIAMOND online

http://diamond.jp/articles/-/17860

2012年、世界の変化はアジアを軸に大きく動く可能性もある。それを、日本から始めるためには、有権者がこの国の政治と未来を決断しなくてはならない局面になっている。

４．日本経済見通し：日本銀行が抱える３つの課題　2012.4.19　大和総研

日本経済は「三本の矢」に支えられて拡大が続くが、４つのリスクに要注意

http://www.dir.co.jp/souken/research/report/japan/monthly/12041901monthly.html

http://www.dir.co.jp/souken/research/report/japan/monthly/12041901monthly.pdf

◆日本銀行が抱える３つの課題：最近、政府・与党や野党による「日銀包囲網」が強まっている。筆者は、わが国でデフレが継続してきた一因は日銀の金融緩和が不十分であったことにあると見ており、追加的な金融緩和の必要性を折に触れて主張してきた。今後、日本銀行は３つの課題への対応を迫ら　れると考えられる。

◆日本経済のメインシナリオ：今後の日本経済は、メインシナリオとして、(１)東日本大震災発生に伴う「復興需要」、(２)米国を中心とする海外経済の持ち直し、(３)日銀の事実上の「インフレ目標」導入を受けた円安の進行、という「３本の矢」に支えられて、緩やかな景気拡大が続く見通しである。

◆リスク要因：日本経済のリスク要因としては、(１)「欧州ソブリン危機」の深刻化、(２)地政学的リスクを背景とする原油価格の高騰、(３)　円高の進行、(４)原発停止に伴う生産の低迷、の４点に留意が必要である。今回のレポートでは紙幅の関係もあり、特に重要性が高い上記(１)と(２)についてのみ、詳細な分析を行うこととしたい。第一に、欧州諸国の国債のヘアカット率に関する３つのシナリオを設定した上で、日本経済に与える影響を算定したところ、最悪のケースでは、わが国の実質ＧＤＰは４％以上押し下げられる可能性がある。今後の「欧州ソブリン危機」の展開次第　では、日本経済が「リーマン・ショック」並の打撃を受ける可能性が皆無ではない。第二に、イラン情勢緊迫化などを背景に原油価格が高騰した場合、　日本企業の交易条件悪化などを通じて、日本経済が「ミニ・スタグフレーション（不況下の物価高）」に陥るリスクがある。

５．「デフレを脱却できないのは日銀のせい」は本当か？　真壁昭夫

金融政策の限界と独立性を無視した政治圧力への警鐘　DIAMOND online

http://diamond.jp/articles/-/17832

わが国でも、政府と日銀がしっかりした意識の下で協調体制を築くことができれば、経済の先行きに明るさが出てくるはずだ。先行きに明るさが出れ　ば、人々は安心してお金を使うようになるだろう。企業の設備投資意欲も盛り上がることが予想される。それが現実味を帯びてくると、おそらく経済状況にも徐々に変化が出るはずだ。それが、デフレ解消の有効な方法と考える。

６．野口悠紀雄の「経済大転換論」 http://diamond.jp/category/s-noguchiconversion

６－１．新興国の工業化が物価下落の最大の要因　DIAMOND online

http://diamond.jp/articles/-/17092

６－２．アメリカがデフレに落ち込まないのはなぜか？

http://diamond.jp/articles/-/17814

日米物価動向の差は、消費構造の違いによる面が大きい。具体的には、アメリカでサービスの比重が高く、かつ上昇したこと、そして、財ではガソリン価格の上昇で上昇したことの影響が大きい。

７．苦境の日本企業よ、逆転発想で“海外買収”を狙え！ DIAMONDonline

成長市場を逃がさぬために心得る「7 つの落とし穴」

火浦俊彦・ベイン・アンド・カンパニー

http://diamond.jp/articles/-/17787

中長期的に国内市場の縮小が避けられないなか、日本企業は自社が成長を続けるための「糧」を、海外市場に求めざるを得なくなった。そんな経済状況を反映して、近年、日本企業による海外企業の買収が増加してきている。しかし、事情のよくわからない海外での買収にはリスクが多く、二の足を踏んでいる関係者も多い。日本企業が海外買収に成功するためにはどうしたらいいのか。世界30ヵ国に展開する大手経営コンサルティングファーム、ベイ　ン・アンド・カンパニー（Bain & Company）で日本支社代表を勤め、「結果主義」の経営戦略を数々の顧客企業にアドバイスしてきた火浦俊彦氏が、海外買収の醍醐味と日本企業が陥りがちな「7 つの落とし穴」を、詳しく指南する。

８．中小企業白書（2012 年版）全文　　平成24 年4 月27 日

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/h24_pdf_mokuji.html

概要

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_gaiyo_web.pdf

凡例・目次

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_mokuji_hanrei_web.pdf

第1 部　2011 年度の中小企業の動向

2011 年度の中小企業の動向

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_part1_web.pdf

第2 部　潜在力の発揮と中小企業の役割

第1 章　大震災からの復興と中小企業の役割

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_part2_chap1_web.pdf

第2 章　需要の創出・獲得に挑む事業活動

第1 節　国内事業を活かし、海外需要を取り込む中小企業

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_part2_chap2_sec1_web.pdf

第2 節　社会環境の変化に対応する女性の事業活動

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_part2_chap2_sec2_web.pdf

第3部　中小企業の技術・経営を支える取組

第1章　中小企業のものづくり人材の育成

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_part3_chap1_web.pdf

第2章　中小企業の経営を支える取組

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_part3_chap2_web.pdf

平成23年度において講じた中小企業施策

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_H23kojiyo_web.pdf

平成24年度において講じようとする中小企業施策

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_H24kojiyo_web.pdf

付注

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_fuchu_web.pdf

補論

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_horon_web.pdf

参考文献

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_sankobunken_web.pdf

付属統計資料

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_fuzokutokei_web.pdf

図表索引

http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H24/PDF/Hakusyo_zuhyosakuin_web.pdf

【連絡先】　中小企業庁　調査室　　E-Mail：ikenbako@meti.go.jp
電話：03-3501-1764　　FAX：03-3501-1207